ICT 通信
第2号

# 学びWEB中東

令和５年５月２６日（金）
足立区立中川東小学校
校長　豊田　純子
ICT 担当　前田　康介

## ６月は…AI ドリル月間

AI ドリル月間では、１ヶ月間子供たちが率先して AI ドリルに取り組みます。学年ごとに目標解答数を設定することで、「より多くの問題に取り組もう！」と子供たちの AI ドリル活用への意欲をさらに高めていこうと考えています。

昨年度の学校全体の月間平均解答数（６月）は４１０問でした。子供たちの取組状況を振り返ると、率先して AI ドリルを活用する子は、１カ月に平均８００問程度解答、AI ドリルを活用する習慣がまだ身に付いていない子は、１カ月に１５０～２００問程度解答と、大きく差があることが分かりました。

そのような状況を踏まえ、どの子もすすんで AI ドリルを活用する習慣を身に付けさせたいという思いから今年度の AI ドリル月間は年に３回設定しました。

## 各学年の目標解答数は？

２年生→３００問　３・４年生→５００問　５・６年生→６００問

＊学校全体での目標平均解答数は・・・５００問！（昨年度より９０問 UP）

１年生は、６月からタブレット学習が始まります。そのため、AI ドリルではなく基本的な操作の練習やタイピング練習に取り組みます。

## どのタイミングで AI ドリルを！？

基本的には、

**〇朝学習時（１５分間）**
**〇家庭学習**
**〇花丸教室時（３０分間）**
**〇授業時（適応問題の代用）**
**〇雨の日の休み時間（１５～２０分間）**　に取り組みます。

６年生の子供たちは、２０分間で２５～３０問程度解答しています。そのため６年生の目標平均解答数６００問を６月の平日２２日間で割ると、毎日２８問程度解答できれば、目標に到達します。１日に、長い時間タブレット端末を使用すると身体に悪い影響を与えてしまいます。また、生活習慣が乱れてしまう恐れもあります。毎日短い時間、コツコツと継続して取り組むことが、タブレット活用の習慣化に繋がっていくはずです。

## タブレット活用の実践例

５年生は、「kahoot!」というクイズアプリを活用しています。教員がクイズを作成し、子供たちが個人やグループで答えを考えます。なぞなぞのようなものだけでなく、学習に関連したクイズを出題することができるので、子供たちは楽しみながら復習問題に取り組むことができます。また、子供たちが出題者としてクイズを作成する機能もあるため、クイズを作成するために答えや解説を調べるなど、調べ学習にもつなげることができます。

ジャムボードで発表シートを作成して、調べ学習の発表会を行いました。タブレット活用のメリットは、実際の写真を読み手に提示できること。また、アニメーションを加えることで、提示の仕方を簡単に工夫することができます。さらに、手書きでポスターを作成するよりも短い期間でポスターを作成することができます。もちろん、手書きで書く良さはありますが…それぞれの良さを理解した上で使い分けることが大切ですね。

## アンケートのお願い

子供たちのタブレット活用に関するアンケートを、Google フォームで作成しました。６月２６日（月）～６月３０日（金）の期間、お子さんのクラスルームにアンケートの URL を添付します。保護者の方から頂いた声や学校での子供たちのタブレット活用の様子などを考慮し、次回の AI ドリル月間やタブレット活用における学校の取り組み方を考えていきたいと思います。

アンケートは、５分程度でお答えいただける内容です。ご多用の中とは思いますが、ご協力よろしくお願いいたします。